



LeapMind 社との資本業務提携について

2019年10月15日

MS & ADインシュアランス グループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社(社長:金杉 恭三)は、2019年10月にディープラーニング技術を活用し企業向けにソリューションを提供する LeapMind 株式会社(以下、LeapMind)と資本業務提携をいたしましたので、お知らせします。

1. 背景

IoT 技術の進展により様々なデバイスからデータ取得が可能となり、コネクティッドカーや自動運転車から取得できるデータ量は飛躍的な拡大が予想されています。取得したデータをカメラなどの端末上でディープラーニング※¹による解析を行う「極小量子化ディープラーニング技術」は、これからの自動運転を見据えた社会において必須の技術となると想定されます。

当社は、テレマティクス自動車保険※²のパイオニアとして様々な商品を発売しており、自動運転社会を見据えて「CASE・MaaS」に対応した商品・サービスの研究・検討を進めています。各種商品から得られるデータをより有効かつ効率的に活用し、データを駆使した魅力的な商品・サービスの開発を目指して、LeapMind と資本業務提携をいたしました。

※¹ ディープラーニングとは、AI (Artificial Intelligence、人工知能) の要素技術であり、十分なデータ量があれば、人間の力なしに機械が自動的にデータから特徴を抽出してくれるディープニューラルネットワーク (DNN) を用いた学習のこと。

※² テレマティクスとは、「テレコミュニケーション」と「インフォマティクス」を組み合わせた造語で、カーナビやGPS等の車載器と移動体通信システムを利用して、様々な情報やサービスを提供する仕組みです。2018年4月に国内初の運転挙動保険料反映型テレマティクス自動車保険『タフ・つながるクルマの保険』を発売しました。また、2020年1月には、通信機能付きドライブレコーダー端末による運転挙動保険料反映型テレマティクス自動車保険『タフ・見守るクルマの保険プラス』を新たに発売します。


2. 概要

LeapMind は、低消費電力な FPGA※³などの電力が限られた小さなコンピューティング環境でもデバイス側でディープラーニングが稼働する「極小量子化ディープラーニング技術」に注力しています。これにより、各デバイスで取得したデータをクラウドなどに転送することなく、リアルタイムで解析し様々な事象を検知することが可能となります。さらに、デバイスで常に取得される膨大なデータの中から、必要なデータを取捨選択することも可能となり、様々なソリューションを生み出すことが期待されています。

※³ FPGA (Field Programmable Gate Array) とは、内部の論理回路の構造を、外部から設計情報を送り込むことで再構成し動作を変更することができる、回路規模が数万ゲート以上に及ぶ大規模で複雑な半導体チップ。



【LeapMind 概要】

会社名	LeapMind 株式会社	
HP	https://leapmind.io	
代表者	代表取締役 CEO 松田 総一	
所在地	東京都渋谷区円山町 28-1 渋谷道玄坂スカイビル 5F	
設立	2012 年 12 月	

3. 今後の展開

当社と LeapMind は今般の資本業務提携を通じて共同検討体制の強化を図り、極小量子化ディープラーニングを活用した商品・サービスの研究を進めていきます。具体的には、当社のテレマティクス自動車保険へ当該技術を取り込み、デバイス側で映像解析した結果を踏まえたより詳細な安全運転アルゴリズムの研究から進め、安全運転に努めているお客さまへの更なる保険料割引や、デバイス側での画像処理を活用した新しいサービス提供を目指します。また、LeapMind が協業する企業等の取組と連動した保険商品の研究開発も視野に、連携領域の拡大を目指していきます。

【LeapMind 代表コメント】

代表取締役 CEO 松田 総一 氏

『LeapMind では、これまでディープラーニング技術を社会実装するために研究開発をしてまいりました。この度の資本業務提携を通じて、テレマティクス自動車保険をより魅力的な商品にしていくことに寄与できるよう取り組んでまいります。来る自動運転社会において革新的な商品やサービスを研究開発しているあいおいニッセイ同和損害保険株式会社と新たな未来に向け、より良い社会を実現していきたいと考えております。』

以上